

2024年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書			2025/9/30			
団体名	一般財団法人とよなか人権文化まちづくり協会	活動タイトル	顔見知り以上、週末里親未満の地域づくり～CAP普及の基盤整備を通して			
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）			■活動風景			
●地域の望ましい社会状況(ビジョン)	「人権」は、「思いやり」ではなく、一人ひとりのかけがえのない"生きる力"です。 CAPプログラムは、子どももおとなも日常生活にある暴力（些細に見える言動も含めて）によって、人権が奪われそうになった時に解決する力を育むことを目標にしています。「安心、自信、自由」というCAPの理念の実現をめざす取り組みは、地域の子どもたち、とりわけ社会的養護につながる子どもたちが「喜びや自信、可能性」を見つけるチャンスにつながります。 児童養護施設・学校園・地域が互いにエンパワーする関係は、地域の課題を共に解決する仲間づくりにとって必要であり、望ましい社会づくりにつながります。		CAP公開おとなワーク （2025.7.16） 地域住民、児相関係者など37人が参加			
●団体の社会的役割(ミッション)	当協会は、54年の歴史を持つ団体（現在の一般財団化は2010年）として、人権啓発、人権教育、相談事業、子どもの居場所事業の一端を担ってきました。豊中市からの委託事業を中心とする財源、有給職員、事務所を有しているという社会的な自覚と責任のもとに協会のミッションである「人権文化」を醸成する活動が求められています。とりわけ、本事業を通してスタートしたCAPの理念の普及、児童養護施設と地域との連携強化は、協会の社会的役割として重要な柱です。					
●団体の活動基盤	●人的資源 こどもの学び・居場所事業の職員が事業の推進の一端を担う。法人の応援団を増やす。 ●物的資源：助成金事業の実施において市民が集う活動スペースの確保と環境整備（パソコン、プリンター、WIFI接続） ●活動資金：豊中市との円滑なコミュニケーションによって、事業委託を継続する。外部資金の導入を図る ●情報：豊中市議会の情報に敏感になり、必要に応じてロビーイングを行う。豊中市内のNPO、社会福祉協議会など関連セクターとの連携強化。					
■活動報告 <400字程度>		■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)				
【CAPの実施】五中校区を中心に児童養護施設「翼」、こども園、克明小学校、箕輪小学校でCAPを実施。子ども、保護者、教職員が「安心・自信・自由」の権利について学んだ。 【円卓会議】隔月開催で毎回14人以上の参加があった。社会的養護や施設を離れる子どもについて学び、自立支援プロジェクト「スマイルごはん会」が立ち上がった。 【おてら倶楽部】地域住民との自然な交流を通じて、翼の子どもたちが地域社会の一員として孤立感なく過ごせる場を提供した。 【おやつづくり】高齢者ボランティアの持つ知恵や技術に触れ、温かい交流を通じて、子どもたちの安心感や自己肯定感を高めた。 【映像制作講座】メディアリテラシーについて学ぶ機会として開催。		●CAPの実施 ①合計22ワーク延べ379人 ②目標アウトカム：参加者の9割が効果的なプログラムであることを理解した。 ●CAPとよなかssf準備会発足 ①準備会グループが発足、6人がスペシャリストに認定 ②目標アウトカム：5人がロールプレイヤー、2人がファシリテーターデビュー ●円卓会議 ①5回開催129人 ②目標アウトカム：毎回14人以上の参加があった。 ●おてら倶楽部 ①10回182人（子ども98人、おとな84人） ②目標アウトカム：おてら倶楽部ボランティア5人がCAP公開ワークに参加 ●おやつづくり ①5回開催45人 ②目標アウトカム：参加児童の80％以上が、計量や道具の後片付けなど、積極的に参加 ●映像制作講座 ①1回開催7人 ②目標アウトカム：制作過程において、当初の計画から1回以上の変更（失敗からの改善）を経験し、それを乗り越えて代替案を提案・実行できた児童の割合が90％以上となった。				
■事業を通じて得られたノウハウ		■望ましい社会状況を達成するための課題		■活動成果のアピールポイント（自由記入）		
・映像制作講座のアンケートに「何回も失敗して何回も考えて、おもしろく楽しくできてよかった」という感想があった。これは映像制作講座を通じて、子どもたちが「失敗を恐れずに挑戦し、主体的に学ぶ力を育む」指導法にノウハウを得た。また、失敗を乗り越え、最終的に「おもしろくできた」という達成感は、子どもの自己効力感を高めた。この体験は、「自分ならできる」という自信につながり、映像制作だけでなく、あらゆる課題解決に応用できる汎用的なスキルを養うことに貢献した。これはCAPプログラムの「安心・自信・自由」の考え方と結びついた重要な要素であると分析する。 ・公開ワークを通じて、児童相談所の職員はCAPプログラムの理念と実践を理解した。これは、今後CAPのワークショップを児童相談所の職員向けに開催したり、共同で研修プログラムを開発したりする際の強力な基盤となる。児童相談所との持続的なパートナーシップを築き、子どもたちがより安全に暮らせる社会の実現に貢献するための重要な資産となる。		・豊中市からの委託事業で実施している豊中市児童育成支援拠点事業において、家庭内に安心できる居場所を持たない子どもたちが一定数いることが明らかになった。翼の子どもたちを真ん中に据えた既存の活動に加え、居場所が必要な子どもたちも気軽に参加できる活動についても今後検討していきたい。 ・CAP公開ワークの参加者は多かったものの、準備会への入会に至る参加者が1名だけだったという課題が残った。入会することで得られるメリットを明確に伝えるプレゼンが必要だと感じた。 ・円卓会議でさまざまな意見が出されるが、具体的なアクションとして実行するのが難しく感じた。		この1年間の活動を通じて	CAP提供事業の質的向上	を達成しました。
				■受益者の具体的な変化（自由記入）		
				何度かCAPに参加してくれてJ-CAPTAからトレーナーを招いてワークショップを実施したことでこれまでも参加していた学校関係者へのCAPへの理解がこれまで以上に深いものとなった。		